	PDCAチェックシート	(平成 27 年月	[実績評価	)	担当局 上下水道局 担当課 下水道計画課		
	事業	概要			課長名福永		
事	)				施策番号		
業名	浸水対策事業				II - 1 - (4) - ④		
					□ 直営 □ 補助金		
事業	  近年、集中的な豪雨や都市化の進展に起因する浸水被害が増	thnl.でいます。			事 ■ 全部委託 □ 負担金		
概	浸水被害を抑制するため、公共下水道の整備を進めると共に流		度の向上を図ります	•	<b>業</b>		
要					<b>法</b> □ その他		
「	事 27年度当初予算額 27年度執行額 (事業費備考	) 人	目安の金額	課長 0.80 人	( )		
スト		道改善事業費の一部を含む 件	165,200 千	係長 2.70 人	(人件費備考)		
17	質 5,200,000 円 円	具		職員 17.20 人			
		【Action】改善					
	U25年度の。東京25年度の東北敦農家は日標を達成することが	できました。					
	H25年度の   平成25年度の雨水整備率は目標を達成することが   評価結果   平成27年度においても、近年の集中豪雨を考慮し、	着実な取り 雨水整			、効率的な方法だと考えますの		
題	を受けて 組みが必要であり、当該年度の目標値に向けて、事 の課題 ていく状況です。	幕条を進め 内 で、51歳	き必要な雨水整備	事業を計画的に進め	ていきます。 		
		容					
	【Plan】計画			【Do】実施	→ 【Check】評価		
	対象(誰を、何を) 目指す状態(どのような状態に	したいか、どのような成果を実	受現したいか)	成			
目				果 代表的な成気			
的	浸水被害の抑制		D貯留·浸透·保水	が 参考に、成果	もの		
	1355 1 3 2 3 2 3 2 3 3 3 2 3 3	3314-4 (341) (21) (31)		<b>  況</b>   <sup>(人), でデエツ</sup>			
	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記述	載) 上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績	成果の状況		
	(上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	下权:20年及美粮		(達成率)	評価理由		
	浸水被害の抑制 	大きの抑制					
代表							
的	ます。						
な   成	(最終目標と目標年度) 浸水被害の抑制 平成32年度						
果							
指標							
			-				
				活			
活	どうやって 過去に浸水した地区や未整備地区などの浸水の危			動活動指標の			
計	目的を達 地形的に浸水を起こしやすいと想定される、山手の成するか 10年確率の計画断面よりも不足している区域などの		箇所や現況断面が	<b>の</b> を参考に、活 <b>状</b> の状況をチェ			
画				況			
	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記録 (上段:指標名 下段:指標の説明)	載) 上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由		
	雨水整備率	70.7 %					
<b>=</b>	- Life Land - Life		71.4 %				
動	雨水管布設工事等を行うことにより、市内の浸水対策が進めらる るか表すものです。	れてい	7				
指標							
			-				
		【Check】評価(分析	fr)				
分	【成果の状況】  【活動の状況】						
析及	を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、						
び	外部要因などの視点						
課題	  「経済性」(同成果を低コストで)						
の整	「効率性」(同コストで高成果を)						
描	の分析						

	PDCAチェックシート(平	成 27 年度	[実績評価]	)	担当局担当課	上下水道局
	事業概要			•	担 当 議 課長名	計画課 谷
事	于 <b>不</b> 恢文	•				策番号
業名	地震対策事業(水道施設)				II - 1	- (4) - ⑤
事業概要 コス	大規模な地震が発生した場合においても、安全で安定的な給水を確何 事 27年度当初予算額 27年度執行額 (事業費備考) 業 412,000 千	保するため水道施設の 人 件	目安の金額	課長 0.04 人	業	□ 補助金 委託 □ 負担金 委託 □ 指定管理 他
٢	費 412,032 千	費	4,610 千	職員 0.42 人		
	H25年度の 評価結果 を受けて の課題	Action】改善 見 直 し 内 容	年度までに耐震補強 - 。	対象施設整備率100	%を目指し、5	安定給水の向上を
	【Plan】計画			【Do】実施	→ 【Ch	eck】評価
目的	対象(誰を、何を) 目指す状態(どのような状態にしたいな 大規模な地震が発生した場合におい に水道施設の耐震化を図ります。			成果の代表的な成果標の実施では、成果で表別である。 では、成果で表別である。 が表別である。 では、成果である。 では、成果である。 では、成果である。 では、のは、のは、のは、のは、のは、のは、のは、のは、のは、のは、のは、のは、のは	ごを !の	
	措標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)		見の状況 価理由
代表的な成果指標	耐震補強対象施設整備率 平成27年度年度までに耐震化を行う13施設について、耐震補強が 進められているか表すものです。 (最終目標と目標年度) 100%(13箇所) 平成27年度	(8箇所) %	100 (13箇所) <sup>9</sup> 6			
活動計画	どうやって 目的を達 成するか	場のろ過池の耐震化コ	こ事を行います。	活 動 活動指標の9 の を参考に、活 状 の状況をチェ 況	動	
	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)		かけり 加理由
活動指標	耐震補強工事数 耐震補強工事を行う箇所数を表すものです。	1 箇所	1 箇			
AKI						
	(Cb	ieck】評価(分#	<del>f</del> )			
分析及び課	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点					
<b>・題の整理</b>	「 <b>経済性」</b> (同成果を低コストで) 「 <b>効率性」</b> (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点					

	PDCA	チェックシート(平	成 27 年	F度	実績評価	)		担当局担当課	上下水道局 施設課	
		事業概要						課長名	中島	
事			*					施	策番号	
業名	地震対策事業(下水	道施設)						Ⅱ - 1	- (4) - ⑤	
事業概要	大規模な地震が発生した場合	合においても、最低限の下水処理が行え	るように下水道施	設の	耐震化を実施するも	ので	<b>†</b> 。	業	委託 □ 負担金 委託 □ 指定管理	
	事 27年度当初予算額	27年度執行額 (事業費備考)		人	目安の金額	部	展 0.06 人	(	)	
ス	業 045,000 千	Ť		件	10,690 千	四	系長 0.25 人	(人件費備考)		
<b>ト</b>	費 845,000 円	円		費	,		战員 1.00 人			
			Action】改	善						
	許価結果  が平成26年度で着	・水道施設の機能を確保するための耐 手を完了するため、次に最低限の下水 D耐震化を図る必要があると考えていま	見 <b>夏</b> 化 <b>直</b> 円 処理 し ル	₽成27	/年度よりポンプ場及 )ていきます。	び浄 <sup>·</sup>	化センターのか	〈処理施設(一	・次処理)の耐震	
		【Plan】計画					o】実施	→ [Ch	eck】評価	
目的	対象(誰を、何を) 目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 成果 大規模な地震が発生した場合においても、「公共衛生の確保、浸水の防除」に 容めるため、最低限の下水処理が行えるように下水道施設の耐煙化を図りま 参考に、							式表的な成果指 雲の実績などを ⇒考に、成果の 式況をチェック		
		は、目指している状態を文章で記載)	上段:25年度実		27年度目標		年度実績		見の状況	
		指標の説明と目標設定の考え方)	下段:26年度実	<b>ミ積</b>		(	達成率)	評	<b>価理由</b>	
代表的な成果指標		<ul><li>(道施設の耐震化率(ポンプ場、浄化センター水処理施設)</li><li>(水道施設33箇所の耐震補強が進められているか表すものです。</li><li>(終目標と目標年度) 39.4% 平成32年度</li></ul>			18.2 %			-		
						活				
活動計画	成するか	、保、浅野町、城野、本城ポンプ場の補	強工事を行います	•		動の状況	活動指標の多を参考に、活の状況をチェ	動ニック		
	指標(数値化できない場合 (上段:指標:	は、目指している状態を文章で記載) 名 下段:指標の説明)	上段:25年度実 下段:26年度実		27年度目標		年度実績 達成率)		かの状況 価理由	
活動指揮	耐震補強箇所数 耐震補強工事に着手する箇所	数を表すもの。	_		6 箇 所					
標										
				/\.dr						
分析及び課	を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点									
眯題の整理	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点									

	PDCAチェックシート(平	成 27 幺	王厚	[実績評価]	)		_	旦当局 旦当課	上下水道局
	事業概要		- 10				-	果長名	海外事業課 
事	于不佩文						1.0		策番号
業名	上下水道技術の国際協力						П	- 3	- (4) - ②
								■ 直営	□補助金
事業	アジアを中心とした国や地域(カンボジア、ベトナム国ハイフォン市、ミ 海外からの研修員受入れにより、本市の浄水技術や漏水削減などの打						事	□ 全部委	託 □ 負担金
概	行うことで、海外の技術者の育成を進め、世界の水環境改善に貢献しる	<b>ます。</b>			± 1710	-1×17, Ø1144-C	業手	□ 一部委	託 □ 指定管理
要	併せて、国際技術協力を通じ、技術の継承や実務能力の向上など、ス	ト巾職貝の育成	にも奇	r <del>与</del> しより。			法	□ そのtt	<u>L</u>
	事 27年度当初予算額 27年度執行額 (事業費備考)		人	目安の金額	部	<b>県長</b> 1.60 人	1	(	)
ス	業 費 69,304 千 円		件	60,150 千	Щ	長 2.00 人	(人作	牛費備考)	
Γ	費		費	35,155	聯	战員 2.90 人			
		Action】改	善						
	H25年度の本市の提案により採択を受けたJICA草の根技術協力事業 自治体国際化協会(CLAIR)の受入研修に加え、JICAやKI								
課題	評価結果の依頼による受入研修などの国際協力を継続的に実施する	るこ <b>し</b> ば		国の制度を活用する &途上国の技術向上			Jな <sub>か</sub>	ら着実な	事業実施に努
	の課題 とにより、更なる現地の技術力向上への寄与が必要と考えます。	てい <b>内</b> (*´							
						7 -t- 11			
	【Plan】計画	100124	m + +			o】実施	$\rightarrow$	[Ch	eck】評価
	対象(誰を、何を) 目指す状態(どのような状態にしたいか アジアを中心とする水環境の	、どのような成績	果を美	送見たいか)	成	代表的な成身	₽t⊵		
目	改善が必要な国や地域(カンボジアや姉妹都市であるペトナ				果の	標の実績など	ごを		
的	ム国ハイフォン市、ミャンマー   海外の技術者を自成します。また、技術	<b>が継承や実務能</b>	力の向	句上など、本市職員	状	参考に、成果状況をチェッ			
	国マンダレー市、インドネシアなど)				況				
	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度 下段:26年度		27年度目標		年度実績 達成率)			:の状況 西理由
	国際技術協力でアジアの発展に貢献								
代		_		開発途上					
表	国際技術協力を通じ、本市が有する技術やノウハウを輸出することに よって、海外技術者の育成を図ります。	向上を目							
的な				指します。			-		
成果	(最終目標と目標年度) 発展途上国の技術向上 毎年度						1		
指									
標									
					-				
活動	とうやって 上下水道技術を海外の研修員に効率的・効果的に伝えるた	∵め、海外の上↑	下水道	事情や国際技術協	活動	活動指標の	実績		
計	目的を達 カに精通した機関である(独)国際協力機構(JICA)、(財): 成するか 連携して取り組みます。	北九州国際技術	協力	協会(KITA)などと	の状	を参考に、活の状況をチェ			
画					況				- Ib
	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度 下段:26年度		27年度目標		年度実績 達成率)			の状況 画理由
	海外からの研修員受入人数(上水)	75	人						
活	本市の提案により採択を受けたJICA草の根技術協力事業及び自治体 国際化協会(CLAIR)事業を活用した受入研修に加え、国際協力機構			80 人					
動	(JICA)や北九州国際技術協力協会(KITA)などの依頼により受け入								
指標	れた研修員の人数です。 海外からの研修員受入人数(下水)								
	本市の提案により採択を受けたJICA草の根技術協力事業及び自治体	277	人						
	国際化協会(CLAIR)事業を活用した受入研修に加え、国際協力機構			200 人					
	(JICA)や北九州国際技術協力協会(KITA)などの依頼により受け入れた研修員の人数です。								
	_[Cb	eck】評価	(45#	<del>-</del>					
	【成果の状況】		C)J 4i	17					
分析	[活動の状況] を踏まえた分析								
及	※事業手法の有効性、								
び課	外部要因などの視点								
題の	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)								
整理	の分析 ※民間活力導入の視点								
	17 CALLETT NO 42 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1								

	PDCAチェックシート(平	成 27 年度	[実績評価]	)	担当局 上下水道局 担当課 計画課
	事業概要				課長名 谷
事					施策番号
業名	配水管更新事業				Ⅲ - 1 - (3) - ①
事業概要	老朽化した配水管を計画的に更新することにより、漏水、赤水、不出っします。	水の解消や管破損事む	女を防止し、安全で安	定的な給水を確保	□ 直営 □ 補助金
コスト	事 27年度当初予算額 27年度執行額 (事業費備考) 業 4,600,000 干 円 円	人件費	目安の金額 296,125 千	課長 1.00 人 係長 5.10 人 職員 31.15 人	(人件費備考)
		Action】改善			
課題	H25年度の 評価結果 を受けて の課題	<b>見</b> 直 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	年度は、老朽化した配 配水管更新を行いま		を進めるため、引き続き年間
	【Plan】計画			【Do】宝施	→ 【Check】評価
	対象(誰を、何を)   目指す状態(どのような状態にしたいか	い どのようか成甲を生	理したいか)		
目的	老朽化した配水管 計画的に更新することにより、漏水、 し、安全で安定的な給水を確保します。	赤水、不出水の解消や		成果の 代表的な成児 標の実績など 参考に、成果 状況をチェッ	ごを !の
	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	安全で安定的な給水の確保				
代表的な成果指	40年以上経過した普通・高級鋳鉄製の配水管がない状態を目指します。 (最終目標と目標年度) 安定給水の向上 平成32年度	_	安定給水の向上		-
標		_			
活動計画	どうやって 目的を達 成するか			活 動 活動指標の の を参考に、活 状 の状況をチェ 況	動
	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績	活動の状況
	(上段:指標名 下段:指標の説明)	下权:20千及天积		(達成率)	評価理由
活動指	配水管更新延長 計画とおりに配水管更新事業が進められているかを表すものです。	56.2 km	62 km		-
標					
	(Ch	eck】評価(分析	f)		
分析及び課題の	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで)				
整理	「効率性」(同コストで高成果を) の分析				

	PDCAfi	ックシート(平)	成 27 🖆	年度	実績評価	)		担当局担当課	上下水道局配水管理課
		事業概要						課長名	穴井
事業名	アクアフレッシュ事業(学校	の直結式給水の推進	<u>≇</u> )						策番号 - (3) - ①
事業概要 コスト	水槽式給水の小中学校等では、近年のリ 水が滞留し、水のおいしさが低減する状況 るため、既存の給水管口径のまま直結式 事 27年度当初予算額 27年度転 業 費 35,000 千	Rにあります。そこで、上下水道 給水への切替えが可能な学校	直局では市立小	中学校	等の直結式給水へ	の切を		業	
			Action]改	÷		144	, O.20		
	= 小山 安子 中	都市局等関係部局と連携して 関係部局と密に連携を図ること	<b>見</b> 事 <b>直</b> 教:が し に	対育委員	会において学校の 、本事業の目標を追す。				
		【Plan】計画					)。]実施	→ 【Ch	eck】評価
	対象(誰を、何を) 目指すり	た。 (どのような状態にしたいか	、どのような成	果を実	現したいか)	成			
目的	市立小中学校等の生徒 よりおいし	い水道水を飲むことができる。	ようにすること			(果の状況	代表的な成り 標の実績など 参考に、成果 状況をチェッ	きの	
	指標(数値化できない場合は、目指し (上段:指標名 下段:指標の説明		上段:25年度 下段:26年度		27年度目標		年度実績 達成率)		lの状況 価理由
代表的な成果指標	学校直結率 市立小中学校の内、直結式給水を採用し (直結式給水の学校数/全学校数) (最終目標と目標年度) 平成27年度まで		- 70	) %	81 %				
活動計画	どうやって 目的を達 成するか	貴の一部助成を行います。				活動の状況	活動指標の多を参考に、活の状況をチェ	動	
	指標(数値化できない場合は、目指し (上段:指標名 下段:打		上段:25年度 下段:26年度		27年度目標		年度実績 達成率)		か状況 価理由
活動指	学校直結化数 学校の直結化に要する工事費を助成した	件数です。	16	6 校	10 校				
標									
分析及び	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点	[Ch	eck】評価	(分析	)				
課題の整理	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点								

	PDCAチェックシート(平成	t 27 ±	年度	実績評価)	)		担当局担当課	上下水道局下水道計画課
	事業概要						課長名	福永
事業名	合流式下水道改善事業							5策番号 - (3) - ③
4 事業概要	合流式下水道で整備された地区は、大雨時に雨水で希釈された未処理下 放流先の汚濁負荷を分流式下水道並みに軽減するため、合流式下水道の	<sup>≂</sup> 水の一部が の改善に努 <i>®</i>	川や海り、良好	な水環境をつくります	r。 		□ 直営事 ■ 全部	□ 補助金 委託 □ 負担金 委託 □ 指定管理
コスト	事     27年度当初予算額     27年度執行額       業費     2,800,000 千円円     千円円		人件費	目安の金額 121,150 千	円 係	長 0.60 人 長 1.75 人 員 12.90 人	(人件費備考)	)
	[A	ction]改	善					
課	H25年度の 評価結果 を受けて の課題 平成25年度の合流式改善率は目標を達成することができました。 マ成27年度においても、より効率性を高め当該年度の目標に 向けて、事業を進めていく状況です。	<b>見</b> 直 し 新	下水道》 新と併せ	ま施行令で定められ; けー体的に行うなど変 を進めていきます。				
	【Plan】計画				T(i	o】実施	→ 【Ch	eck】評価
目的	対象(誰を、何を) 目指す状態(どのような状態にしたいか、 合流式下水道区域における汚 濁負荷量 合流式下水道を分流式下水道並みの汚れ への改良や雨水滞水池の設置などを進め	濁負荷に軽源	或するた	め、分流式下水道	成果の状況	代表的な成果標の実績など 参考に、成果 状況をチェック	を の	
	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度 下段:26年度		27年度目標	27	年度実績 達成率)		見の状況 価理由
代表的な成果指標	良好な水環境の実現 公衆衛生上の安全確保のため合流区域において、未処理の生活排水が河川等に流入しない状態を目指します。 (最終目標と目標年度) 合流式下水道の改善 平成35年度	_	-	合流式下 水道の改 善				
活動計画	どうやって 目的を達成するか 浸水対策や改築更新に併せ一体的に取り組むことはもとより、 を図りながら、合流式下水道の改善を進めます。	、河川整備等	の他事	業とも緊密な連携	活動の状況	活動指標の写を参考に、活の状況をチェ	動	
	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度 下段:26年度		27年度目標		年度実績 達成率)		かけ況 価理由
活動指標	合流改善率 雨水整備による分流化及び雨水滞水池の設置を行っていくことで、合流式下水道の改善を進めることができます。	31.	8 %	43.4 %				
		ck】評価	(/)	:\				
析	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点		T (2) 初					
題の整	「 <b>経済性」</b> (同成果を低コストで) 「 <b>効率性」</b> (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点							

		PDCA	チェックシ	ソート (平)	龙 27	年度	実績評価	)		担当局	上下水道局
				事業概要	<del></del>	1 10		_		担当課課長名	浄水課 
事				<b>事未似女</b>						W1.04.1	を ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・
業	小水力:	発電設備設備	置事業								- (4) - (2)
名											., 0
事										□ 直営	甘□補助金
業	水道施設に	おける再生可能で	ニネルギーを有効に利用	ヨするため 小水力:	発電の整備	推准を図	ろものです			事 ■ 全部	逐託 □ 負担金
概要	//\Z=\\\C\\\C\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	-0317 @112-1162	-170 ( 2 1333) -137	117 0/2007 1 7/73	70 FE 97 IE IM 1					<b>-</b>	逐託 □ 指定管理
1										<b>」法</b> □ その	他
П	+	度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)		人	目安の金額		果長 0.01 人	( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( (	)
スト	業   費	0 刊	千 円	着工のため、予算は多	き生しない	件   費	1,340 千	四	系長 0.01 人 戦員 0.15 人	(人件費備考) -	
-						,,		45	以貝 0.15 八		
				Ţ,	Action]	<b>汝善</b>					
		水運用形態の変	で化により利用可能なコ	ニネルギーが変化す	る 見		年度に導入を予定し				
課	H25年度の 評価結果	バにめ、骨八にめに	っては慎重に検討をす エネルギーに関する制	る必要があります。	でい し	ネルギー	<u>\</u> めなくなったので導 <i>〕</i> -ロスがないように見直	直されて	ていく予定であり	、新たな水力:	発電の導入は今後
題	を受けて の課題	るので適時関連機	機関と協議を行い情報		進 内		検討する必要がありる続して発電可能となる				
	める必要があります。										
			_[Play	n]計画				_ /r	)。]宝施	→ [Ch	neck】評価
	対象(誰を、	何を)		「プロ」凹 うな状態にしたいか	、どのような	成果を実	現したいか)				TOOK I HT IM
_	THE PART OF VALUE OF V			5.5.5.5.				成   果	代表的な成果		
目的	水道施設		再生可能エネルギー	-の有効利用を図り	ます.			の	標の実績なる参考に、成果		
	/八旦//巴氏			O HAMMINIEED /	<b>6</b> 70			状況	状況をチェッ		
	地域	(粉値ルズキな)、塩	 合は、目指している状態	た文音で記載)	上段:25年	<b>唐宝结</b>		27	│ '年度実績	L 154	果の状況
			: 指標の説明と目標設定		下段:26年		27年度目標		達成率)		·価理由
	再生可能工	ネルギーの有効和	<b>利用</b>								
代						_	再生エネ				
表	水道施設に	おける再生可能エ	ネルギーの有効利用	を目指します。			ルギー有 効利用推				
的な	/ 目 纷 口 +西		上 & 西=11./# + + = 11.4	と、しょくロエールーエカイの体			進				
成	(取終日標6 所	2日標年度) 小水	力発電設備新設1箇所	およい既設更新2固							
果指											
標											
										-	
								活			
活動	どうやって	亚世 27 左连 4		・				動	活動指標の		
計画	目的を達 成するか	平成27年度は、2	2箇所目の既設水力発	単の史析に有于し	£9°			の状	を参考に、活の状況をチェ		
<u> </u>	16.100							況			
	指標		合は、目指している状態 票名 下段:指標の説明)		上段:25年 下段:26年		27年度目標		年度実績 達成率)		動の状況 価理由
	既設水力発	電の更新				1 #FEC		,			
_						1 箇所	1 1 所				
活動	既設水力発	電の更新に着手し	します。(平成29年度	完成予定)			' 所				
指											
標											
										1	
				Che	eck】評化	西(分析	f)				
75	【成果の状況】										
分析	【活動の状态 を踏まえた	<b>況】</b> 分析									
及	※事業手法	の有効性、									
び課	外部要因な	よこの代点									
題		(同成果を低コストで)									
の整	「 <b>効率性」</b> の分析	(同コストで高成果を)									
理	※民間活力	導入の視点									

	PDCA	チェックシート(平)	成 27 年度	宇善評価	)		担当局	上下水道局
	· DON	車業恒車			_		担当課	施設課
事		<b>事未</b> 概安					課長名施	中島 策番号
<b>学業名</b>	下水道資源の有効和	川用						- (3) - <b>4</b>
事業概要	下水汚泥のバイオマスエネルキいます。	デーとしての燃料化やさまざまな資源とし	ての有効利用、またタ	処理水の再利用によ	る循環	貫利用などを行	業	□ 補助金 委託 □ 負担金 委託 □ 指定管理
コスト	事 27年度当初予算額 業 費 1,971,935 千	27年度執行額 (事業費備考) 千円	人件費	目安の金額 127,275 千	四	果長 1.00 人 系長 2.33 人 戦員 12.33 人	(人件費備考)	)
			Action】改善					
課題	H25年度の   料化設備稼働までは  評価結果   下水処理水有効利用  を受けて   用、散水用などの利	については、平成27年度供用開始予定の 、現在の有効活用方法に変更はありません 引については、場内での利用、 隣接工場での 用用途に限られており、利用拡大は難しい 利用が節電対策などで減っており再利用型	D燃 <b>見</b> ん。 <b>直</b> 目標達 D利 <b>し</b> 再利用 状況 <b>し</b>	成のため、汚泥の有 率を維持しながら、す ても現状維持としてい	なる	利用率の向上に		
		【Plan】計画				Do】実施	→ [Ch	eck】評価
目的	<b>対象</b> (誰を、何を) 下水道資源	目指す状態(どのような状態にしたいか) 下水汚泥のバイオマスエネルギーとして	ての燃料化やさまざま	な資源としての有	成果の	代表的な成り 標の実績など 参考に、成果	ビを	
н,		効利用、また処理水の再利用による循     は、目指している状態を文章で記載)	環利用などを一層進む 上段:25年度実績	かます。	状 況 27	状況をチェック		の状況
		<b>旨標の説明と目標設定の考え方</b> )	下段:26年度実績	27千戊日保	(	達成率)	評価	<b>価理由</b>
表的	浄化センターで発生する下水汚 合焼却によるごみ発電の燃料と た割合。	92.2 %	100 %					
な成果指標	(最終目標と目標年度) 100% 下水処理水有効利用率	平成28年度	5.3 %					
標	浄化センターで処理した水を場 用水として再利用した割合。	内の雑用水や修景用水、民間工場等の		5 %			-	
	(最終目標と目標年度) 10%	以上 平成32年度 						
活動計画		理方法以外に、更なる再資源化に向け; 有効利用は、更なる再利用率の向上のが			活動の状況	活動指標の語を参考に、活の状況をチェ	動	
		は、目指している状態を文章で記載) 3 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標		年度実績 達成率)		か状況 価理由
活動指	設備を平成27年度供用開始に	組み 「泥の更なる再資源化として汚泥燃料化 向けて施工中です。燃料化設備により、 料となりCO2排出削減効果があります。	燃料化施設建設工 事の進捗管理を実 施	汚泥燃料 化施設の 供用開始				
標		検討 「ちのためその他のでの利用用途を検	燃料化施設等での 利用を検討	単年度目 標設定なし				
	計する必要があります。   							
		[Ch	eck】評価(分析	<del>г</del> т)				
分析及び	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点	-						
課題の整理	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点							

	PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価	)	担当局担当課	上下水道局	
	事業概要		課長名	<del>選田</del>	
事				策番号	
業名	上下水道技術の国際協力		<b>VII</b> - 1	- (3) - 2	
事業概要	海外からの研修員受入れにより、本市の浄水技術や漏水削減などの技術の移転、下水道の計画づくりや維持管行うことで、海外の技術者の育成を進め、世界の水環境改善に貢献します。 併せて、国際技術協力を通じ、技術の継承や実務能力の向上など、本市職員の育成にも寄与します。		薬	委託 □ 指定管理	
コスト	事業費     27年度当初予算額     27年度執行額     (事業費備考)     人件費     目安の金額       **     69,304 円     千円     円     **     *		(人件費備考)	)	
	【Action】改善				
課題	本市の提案により採択を受けたJICA草の根技術協力事業や 見 自治体国際化協会(CLAIR)の受済研修に加え、IICAやKITA		ながら着実な	事業実施に努	
	【Plan】計画	【Do】実施	→ 【Ch	eck】評価	
	対象(誰を、何を) <b>目指す状態</b> (どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)			OCK THT IM	
	アジアを中心とする水環境の 改善が必要な国や地域(カン 本市が長年の事業運営の過程で培った技術やノウハウを活かした指導を行い	成果の 代表的な成果 の 状況をチェック 現場を で が で の の の の の の の の の の の の の の り の の の の	:を :の		
	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) 上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度実績 (達成率)		見の状況 価理由	
代表的な成	国際技術協力でアジアの発展に貢献 - 開発途上国際技術協力を通じ、本市が有する技術やノウハウを輸出することによって、海外技術者の育成を図ります。 - 開発途上国の技術向上を目指します。	学技術協力でアジアの発展に貢献 - 開発途上 学技術協力を通じ、本市が有する技術やノウハウを輸出することに 国の技術 で、海外技術者の育成を図ります。 - 同上を目 指します。			
果 標					
活動計画	どうやって 目的を達 成するか 上下水道技術を海外の研修員に効率的・効果的に伝えるため、海外の上下水道事情や国際技術協力に精通した機関である(独)国際協力機構(JICA)、(財)北九州国際技術協力協会(KITA)などと連携して取り組みます。	活	動		
	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:1指標名 下段:1指標の説明) 上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度実績 (達成率)		かけい 価理由	
活動指	海外からの研修員受入人数(上水) 本市の提案により採択を受けたJICA草の根技術協力事業及び自治体 国際化協会(CLAIR)事業を活用した受入研修に加え、国際協力機構 (JICA) や北九州国際技術協力協会(KITA)などの依頼により受け入 れた研修員の人数です。				
標	海外からの研修員受入人数(下水) 本市の提案により採択を受けたJICA草の根技術協力事業及び自治体 国際化協会(CLAIR)事業を活用した受入研修に加え、国際協力機構 (JICA) や北九州国際技術協力協会(KITA)などの依頼により受け入 れた研修員の人数です。				
	【Check】評価(分析)				
分析及び	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点				
課題の整理	「 <b>経済性」</b> (同成果を低コストで) 「 <b>効率性」</b> (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点				

	PDCAチェックシート(平)	ぱ り7 佐藤	宇宇华亚体	١		担当局	上下水道局
	·		2天积計111	,		担当課	海外事業課
	事業概要					課長名	窪田
事業名	海外水ビジネスの推進						<ul><li>策番号</li><li>- (3) - (2)</li></ul>
事業概要	上下水道分野などの海外水ビジネスは、2025年には約87兆円規模の てもアジアを中心とした水インフラ分野の海外展開が主要分野に位置で ジネス推進協議会」を設立しました。官民が有する技術力やノウハウを 地場企業による水ビジネス案件の受注を目指して事業を展開しています ジネスの国際戦略拠点づくりを進めます。	ゔけられています。本ī 結集し、計画づくりから	市では、平成22年に「 ら設計、建設、維持管	北九月	州市海外水ビ 事業運営まで、	事 □ 全部	委託 ■ 負担金 委託 □ 指定管理
_	事 27年度当初予算額 27年度執行額 (事業費備考)	人	目安の金額	ā	果長 1.40 人	(	
<b>X</b>	業 費 109,585 円 円	件 費	59,350 <del>T</del>	四	系長 2.00 人  哉員 3.10 人	-1	
		Action】改善					
課題	ビジネス対象国であるカンボジアやベトナム・ハイフォン市、 H25年度の ドネシアで、案件形成活動を行い、着実に事業展開を行っ 評価結果 きました。その結果、平成26年度は上下水道併せて4件(H2 の課題 時点)のビジネス案件を受注するなど、徐々に成果が現れてますが、更なる案件獲得に向け、積極的な活動が必要であ考えます。	oて <b>直</b> 6.9 <b>し</b> 北九州 てい <b>中</b> 得を目:	市海外水ビジネス推 指します。	進協詞	義会とより一層	、緊密に連携	し、案件形成・獲
	【Plan】計画				Do】実施	→ 【Ch	eck】評価
	対象(誰を、何を) 目指す状態(どのような状態にしたいか	、、どのような成果を実	ミ現したいか)	成			
目的	カンボジア、ベトナム・ハイフォン市、中国・大連市、インドネシアを中心とする対象国 居間企業が有する高い技術力や資金プラを中心とする対象国			(果の状況	代表的な成績 標の実績なる 参考に、成身 状況をチェッ	どを 見の	
	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標		/年度実績 (達成率)		<b>見の状況</b> 価理由
	上水道に関する水ビジネス案件の受注	10.404 7.00					
代表的な	アジアを中心をした国や地域を対象に、上水道に関するビジネス案件を受注します。	- 19,464 千円	単年度目 標設定なし				
よし	(最終目標と目標年度) ―						
目	下水道に関する水ビジネス案件の受注	909 千円					
栗	アジアを中心とした国や地域を対象に、国際戦略拠点を活用しながら、 下水道に関するビジネス案件を受注します。		単年度目標設定なし				
	(最終目標と目標年度) ―						
舌動計画	どうやって 目的を達成するか 「北九州市海外水ビジネス推進協議会」を軸として、国際技 集いているカンボジア、ベトナム、中国、インドネシアを当面			活動の状況	活動指標のきを参考に、活の状況をチェ	動	
	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標		/年度実績 (達成率)		かの状況 価理由
舌肋旨	海外水ビジネスの推進 「北九州市海外水ビジネス推進協議会」を軸に、技術・製品の具体的な売り込みや各種展示会への出展、広報活動など、セールスプロモーション活動を進めます。	_	単年度目標設定なし				
栗	国際戦略拠点の効果的な活用に向けた活動	_	* <b>/ / / / / / / / / /</b>				
	平成27年度からの活用に向け、関係課と緊密に連携しながら、具体的 な活用策や管理運営体制の検討などを進めます。		」単年度目  標設定なし 				
		eck】評価(分ŧ	ff)				
う 斤 及 〆	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点						
)課題の整理	「 <b>経済性」</b> (同成果を低コストで) 「 <b>効率性」</b> (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点						

	PDCAチェックシート(平	成 27 年度	[字緒評価	)	担当局	上下水道局
	事業概要			<u> </u>	担当課課長名	海外事業課
THE COLUMN	—————————————————————————————————————				#1.E1 E	窪田 策番号
事業名	海外水ビジネスの推進					- (1) - ①
事業概要	上下水道分野などの海外水ビジネスは、2025年には約87兆円規模のてもアジアを中心とした水インフラ分野の海外展開が主要分野に位置でジネス推進協議会」を設立しました。官民が有する技術カやノウハウを地場企業による水ビジネス案件の受注を目指して事業を展開していまでネスの国際戦略拠点づくりを進めます。	づけられています。本市 結集し、計画づくりから	うでは、平成22年に「 う設計、建設、維持管	北九州市海外水ビ 理、事業運営まで、	事 □ 全部引	委託 □ 指定管理
コス	事 27年度当初予算額 27年度執行額 (事業費備考) 業 千	人件	目安の金額 59,350 千	課長 1.40 人	_	)
١-	費 109,585 円 円	費	39,330	職員 3.10 人		
		Action】改善				
課題	ビジネス対象国であるカンボジアやベトナム・ハイフォン市、 H25年度の ドネシアで、案件形成活動を行い、着実に事業展開を行評価結果 きました。その結果、平成26年度は上下水道併せて4件(H2 の課題 によりが、更なる案件を受注するなど、徐々に成果が現れますが、更なる案件獲得に向け、積極的な活動が必要であ考えます。	って <b>直</b> 北九州i 16.9 <b>し</b> 北九州i てい <b>中</b> 得を目i	市海外水ビジネス推 皆します。	進協議会とより一層	、緊密に連携し	<b>ノ案件形成・獲</b>
	【Plan】計画			【Do】実施	→ [Ch	eck】評価
	対象(誰を、何を) 目指す状態(どのような状態にしたいか	・、どのような成果を実	現したいか)	成		
目的	カンボジア、ベトナム・ハイフォ ン市、中国・大連市、インドネシ アを中心とする対象国 民間企業が有する高い技術力や資金、 信用力を結集し、海外の上下水道ビジ			代表的な成態を表別では、成果の状況をチェック状況をチェックを	どを 具の	
	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)		の状況 価理由
	上水道に関する水ビジネス案件の受注	10.404 7.00				
代表的	アジアを中心をした国や地域を対象に、上水道に関するビジネス案件を受注します。	19,464 千円	単年度目標設定なし			
な成	(最終目標と目標年度) ―					
果指	下水道に関する水ビジネス案件の受注	909 千円				
標	アジアを中心とした国や地域を対象に、国際戦略拠点を活用しながら、 下水道に関するビジネス案件を受注します。		単年度目 標設定なし			
	(最終目標と目標年度) ―					
活動計画	どうやって 目的を達成するか 「北九州市海外水ビジネス推進協議会」を軸として、国際技 集いているカンボジア、ベトナム、中国、インドネシアを当面			活 動 活動指標の の を参考に、活 状 の状況をチュ	動	
	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)		か状況 価理由
活動指	海外水ビジネスの推進 「北九州市海外水ビジネス推進協議会」を軸に、技術・製品の具体的な売り込みや各種展示会への出展、広報活動など、セールスプロモーション活動を進めます。		単年度目標設定なし		_	
標	国際戦略拠点の効果的な活用に向けた活動	_	w			
	平成27年度からの活用に向け、関係課と緊密に連携しながら、具体的な活用策や管理運営体制の検討などを進めます。		標設定なし			
		eck】評価(分#	τ́)			
分析及び	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点					
課題の整理	「 <b>経済性」</b> (同成果を低コストで) 「 <b>効率性」</b> (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点					